

2021年度事業報告

2021年度は新型コロナウイルス（COVID-19）感染症のパンデミックから1年が経ち、治療法が模索される中で国民へのワクチン接種が進められ、かかりにくさや発症時の重症化を防ぐ一定の効果がありつつも、未接種者へのワクチンハラスメントという新たな問題も出てきた。第5波真ただ中で世界的スポーツイベントの東京オリンピック・パラリンピックは無観客という未だかつてない形で開催されたが、アスリートの熱気と躍動とは裏腹に、国内は感染者が病院に入院出来ずに自宅療養中に何人も亡くなるという痛ましい在宅死が散見され、医療崩壊が高らかに叫ばれる事態となった。2022年の年明けに第6波となったオミクロン株は凄まじい感染力で東京においては連日過去最高の感染者数を記録し一日の新規感染者数は二万人に迫る勢いだったが、重症者数がそこまで多くならなかったことが唯一の救いだったと言える。しかしながら、国民への3回目のワクチン接種、抗体カクテル療法、経口摂取薬の承認など終息に向けての明るい兆しが見え出した一年でもあった。

新型コロナウイルス感染症の拡大から2年目となり、私たちの医療現場は少しずつ落ち着きを取り戻し、通常の診療と区別しながら対応する工夫や手段を身に付けてきた。私たち医療ソーシャルワーカーも、患者やクライアントの情報を家族や関係者に伝えるために動画やオンラインを活用し、カンファレンスの開催や転院相談業務を遂行できるようになってきた。

このような情勢の中で当協会は、2021年5月に開催された定期総会で可決された名称変更により、「東京都医療ソーシャルワーカー協会」へと2021年10月からその名称を変え、活動を進めてきた。

2020年度に引き続き新型コロナウイルスの感染拡大に伴い東京都からの委託事業に影響が出てしまい、各地で開催される「地域巡回医療福祉相談会」はブロックによっては開催できず中止となり、新人研修やグループスーパービジョンは基本的にオンラインでの開催となった。

この他にも、協会の事業活動の中心と言えるブロック活動はオンラインを活用し行えるようになってきたが、これまでのような充実した活動をするにはもう少し時間がかかりそうである。また、昨年度は開催できなかった社会問題対策部の都民向け公開講座はオンラインで開催され、小委員会もオンラインで活動、理事会もZoomを使用し少人数での直接出席とのハイブリッドで開催することが出来た。このように、新型コロナウイルスの感染者数が増加しても活動に影響が出ないようにオンライン中心での活動となった。

今までのように直接会うことを前提とした運営システムや会員への広報の仕方だけでは何かと不具合が生じることが出てきたことから、年度の途中でICT委員会を立ち上げ、まずはホームページのリニューアルを検討し来年度内での完成を目指している。

その他、事業計画に基づき、以下の事業を実施した。

1. 一般社団法人として求められている要件整備に努めた。
2. 事業に関する会員の理解を深め、会員が主体的にかかわり、積極的に参加できるよう努めた。
3. 医療福祉関係の他団体との連携を深め、公益事業と社会活動を推進した。

4. 東京都及び都議会各派へ、医療福祉の向上のため要望書を提出した。
5. 協会活動の情報提供や会員の意見交流の場として、出版活動及びホームページの充実に努めた。
6. オンラインでの講座・研修会を開催し、会員の専門性の向上に努めた。
7. 医療福祉相談事業の充実に努めた。
8. 医療福祉問題研究委員会活動の充実に努めた。

I. 管理運営報告

1. 公益法人の要件整備に努めた。
 - (1) 公益法人の最高意思決定機関である社員総会への出席会員の増員に努めた。
 - (2) 協会事務所の事務局体制を週4日稼働し、会計処理をはじめとした各部理事体制における事務処理の流れを事務局にて処理した。
 - (3) 会計業務を効率的に行うためにインターネットバンキングの導入をした。
 - (4) 公益法人の原資である会費については、各ブロックの世話人と理事の協力で未納会員の納入促進を図り、財源確保に努めた。
2. 公益性の高い公益（自主）事業の継続に努めた。
 - (1) 都民に対しての公開講座を新型コロナウイルスの影響によりオンラインで開催した。
 - (2) 江戸川区医療福祉相談会の開催を予定したが新型コロナウイルスの影響で中止した。
 - (3) 西東京市医療福祉相談会を新型コロナウイルスの影響でオンラインで開催した。
 - (4) 葛飾区医療福祉相談会の開催を予定したが新型コロナウイルスの影響で中止した。
 - (5) 江戸川区神経難病検診を東京都委託事業（地域巡回医療福祉相談会）として実施した。
 - (6) 豊島区医療福祉相談会の開催を予定したが新型コロナウイルスの影響で中止した。
 - (7) 医療関連12団体で構成する医療従事者ネットワーク連絡会を中心とした看護フェスタに、オンラインにて参加した。
3. 医療福祉向上のため都知事及び都議会各政党・会派に対し要望書を提出した。
4. 他団体との連携を図り社会活動の推進に努めた。
5. ブロック代表世話人会と地域巡回医療福祉相談活動企画運営委員会を定期開催し、各ブロックの活動を支援するとともに協会活動の活性化に努めた。
6. 地域包括ケアプロジェクトを通じ、東京都の地域包括ケアシステム構築に努めた。
7. 広報活動

- (1) ホームページを活用し、広く協会活動の広報に役立てた。会員名簿の掲載を行った。
 - (2) 会員向けに「東京MSW」ニュースを発行し、内容の濃い企画、編集を行い情報提供に努めた。
8. 次の事業について東京都から受託契約し、事業が円滑に遂行されるように努めた。
- (1) 地域巡回医療福祉相談事業
 - (2) 電話相談事業（医療と暮らしのほっとライン）
 - (3) 医療社会事業従事者講習会、新人研修特別講座
 - (4) グループスーパービジョン（2講座）
9. 求人求職について「ホームページ」に随時情報を掲載した。
10. 会員の入退会状況を速やかに把握するように努め、ブロック代表世話人会を通じブロックに情報を提供した。
11. 病気や出産等によりやむなく退会する会員を救済するため、休会規定を整備した。
12. 相談会活動時に会員及び来談者を対象とした傷害保険に加入し、不測の事態に備えた。
13. 理事会、及びこれに準ずる活動時に参加者・出席者を対象とした傷害保険に加入し、不測の事態に備えた。
14. 未加入ソーシャルワーカーの入会を促進し、賛助会員要件を検討した。
15. 会員の異動状況（2021年度）

| | 正会員 | 準会員 | 賛助会員 | 合計 |
|------|-----|-----|------|-----|
| 入会者数 | 56 | 6 | 0 | 62 |
| 退会者数 | 69 | 7 | 2 | 78 |
| 現会員数 | 570 | 65 | 6 | 641 |

*2022年3月31日現在

表1. ブロック活動状況

| 第1ブロック | | 第2ブロック | |
|--------|---|--------|--|
| 3/31 | 新世話人会 | 5/11 | ZOOMにて世話人会 |
| 5/21 | 世話人会 | 6/15 | ZOOMにて世話人会 |
| 7/20 | コーヒーブレイク発送 | 7/26 | ZOOMにて世話人会 |
| 11/10 | コーヒーブレイク発送 | 8/24 | ZOOMにて世話人会 |
| 11/13 | 地域巡回医療福祉相談会 (東大和総合福祉センター) | 9/15 | ZOOMにて世話人会 |
| 11/24 | 世話人会 | 10/16 | ZOOMにて世話人会 |
| 1/20 | アンケート実施(郵送) 「連絡網の活用・今後の活動について」 | 11/10 | 地域巡回医療福祉相談会 「八王子介護フェア」 |
| 3/2 | 世話人会 | 11/18 | ZOOMにて交流会 |
| | ◎佐藤 なみ (西東京中央総合病院) ○並木 和美 (一橋病院) ▲須山 弘美 (東大和病院) ▲来山 剛士 (東大和病院) 菅原 佳子 (救世軍清瀬病院) 山口 圭太 (新山手病院) | | ◎山本 君枝 (相武病院) ○石川 裕加里 (康明会病院) 武井 純一 (八王子医療センター) 池田 千夏 (八王子山王病院) 大栗 里沙 (立川相互病院) |

(ブロック世話人名簿 ◎印は代表世話人、▲印は相談事業運営委員、○は会計)

表2. ブロック活動状況

| 第3ブロック | | 第4ブロック | |
|----------|---|--|---------------------------------------|
| 7/19 | 世話人会 | 5/12 | 新旧世話人引継ぎ会 |
| | | 12/15 | オンライン研修講師との打ち合わせ |
| 9/1 | 世話人会 | 8/12 | 世話人会 ・今年度の活動計画の作成 ・ブロック通信第1号の発行 |
| 9/27 | ZOOM オンライン交流会 (テーマ: コロナ禍の思いを話し合おう) | 10/12 | オンライン研修企画書作成 |
| 11/18 | 世話人会 | 12/2 | 世話人会 |
| 12/22 | 世話人会 | 2/10 | 研修リハーサル ブロック通信第2号作成 |
| 2/17 | 世話人会 | 2/15 | オンライン研修開催 「退院支援と在宅継続」 |
| 3/18 | 世話人会 | 3/23 | 研修に関するアンケート作成 ブロック通信第3号の作成 |
| 3/26 | 地域巡回医療福祉相談会 介護学べるサロン (練馬区家族介護者教室) | | |
| 世話人・運営委員 | ◎賀来 尚人 (東京都健康長寿医療センター) ○濱中 祐美 (さくらクリニック) ▲榎本 浩典 (板橋区医師会在宅医療センター療養相談室) ▲権正 亜子 (関野病院) 押田 有紗 (ゆみのハートクリニック) 中土 純子 (東京福祉大学) 河西 亜子 (東京健生病院) 堀江 菜月 (順天堂大学医学部附属練馬病院) | ◎安積 紗希 (東京医科歯科大学病院) ○細淵 由真 (日本大学病院) ▲荒井 恵美 (東京医科大学病院) 成島 有希 (浅草寺病院) | |

(ブロック世話人名簿 ◎印は代表世話人、▲印は相談事業運営委員、○は会計)

表3. ブロック活動状況

| 第5ブロック | | 第6ブロック |
|--|--|---|
| 世話人会については随時メール、LINEにて随時意見交換をし、打ち合わせ。 | | 世話人会についてはZOOMで開催。 6/3 世話人会 |
| 4/8 臨床心理士執筆の文章 発送 | | 7月ブロックニュース発行 |
| 7/1 世話人会 | | 8/19 世話人会 |
| 9/2 Zoom 情報交換会 | | 10/13 世話人会 |
| 10/3 地域巡回医療福祉相談会 (江戸川区神経難病検診に参加 東京都委託事業) | | 12/9 世話人会 |
| 10/21 世話人会 | | 1月ブロックニュース発行 |
| 2/3 ZOOMブロック会 「訪問診療、訪問看護について」 清澄ケアクリニック、オリーブ訪問看護リ ハビリステーション・訪問診療医・MSW | | 1/25 世話人会 |
| | | 2/3 6ブロック勉強会 |
| | | 2/9 世話人会 |
| | | 3月ブロックニュース発行 |
| 世話人・運営委員 | ◎上田 美佐江 (がん研究会有明病院) ○加藤 大介 (東京東病院) 沓澤 郁子 (水野記念病院) 中川 知香子 (がん研究会有明病院) 須藤 純子 (京葉病院) 倉知 志帆 (苑田第三病院) 佐藤 智美 (清澄ケアクリニック) | ◎田村 早紀 (東京医療センター) ◎河野 佳奈 (東京医療センター) ○平林 朋子 (ソピア御殿山) 安仁屋 衣子 (厚生中央病院) 村上 大介 (厚生中央病院) 小又 明子 (五反田リハビリテーション病院) 倉石 瑠美子 (東京衛生アドベンチ スト病院) 東 妙香 (成城リハケア病院) |

(ブロック世話人名簿 ◎印は代表世話人、▲印は相談事業運営委員、○は会計)

表4. ブロック活動状況

| 第7ブロック | |
|----------|---|
| 4/28 | 世話人会 |
| 7/8 | 世話人会 |
| 9/6 | 名刺交換会 |
| 9/8 | オンライン名刺交換会 |
| 11/24 | 世話人会 |
| 1/ | 世話人会 |
| 世話人・運営委員 | ◎溝口 今日子 (日本医科大学多摩永山病院) ○奥野 朋子 (国分寺病院) ▲大川 真央 (武蔵野赤十字病院) 羽田野 愛 (日本医科大学多摩永山病院) 室井 健太郎 (366 リハビリテーション病院) 守谷 李枝子 (国分寺病院) 小杉 麻耶 (多摩丘陵病院) |

(ブロック世話人名簿 ◎印は代表世話人、▲印は相談事業運営委員、○は会計)

II. 各事業報告

【定款第1号事業】

1) 医療ソーシャルワークの普及及び向上に寄与する事業

1. 地域巡回医療福祉相談【受託事業】

地域巡回医療福祉相談は、各ブロックの運営委員会を中心に実行委員会を組織し、多くの会員の協力のもとに年7回実施を予定したが、新型コロナウイルスの影響で対面での相談会は4回の開催となった。

| 日程 | | 開催場所 | 相談 件数 | 特別企画 |
|----|-----------|-------------------|----------|------------------------|
| 1 | 10月4日(日) | 江戸川区医師会館 | 3 | 江戸川区神経難病検診 |
| 2 | 11月10日(土) | 八王子市介護フェア | 2 | 地域巡回医療福祉相談会 |
| 3 | 11月13日(土) | 東大和総合福祉センター | 1 | 地域巡回医療福祉相談会 (講演会6名) |
| 4 | 3月26日(土) | 介護老人保健室 練馬ゆめの木 | 6 | 地域巡回医療福祉相談会 |

2. 電話相談(医療と暮らしのほっとライン)【受託事業】

2021年4月より月4回、電話相談を実施した。件数は、下記表中に含まれる。

地域巡回医療福祉相談と電話相談の相談内容と件数

| 事 項 | 面接 | 電話 | 文書 | 計 |
|------------------------------------|----|----|----|----|
| 病気から派生した本人家族の社会生活上の問題 | 7 | 17 | 0 | 24 |
| 病気又は治療の障害となっている心理的不安等精神的問題 | 4 | 27 | 0 | 31 |
| 病気又は問題の要因となっている患者の家族関係やその他の対人関係の調整 | 2 | 3 | 0 | 5 |
| 治療費や生活費等の経済的問題に対する各種制度の利用斡旋 | 1 | 2 | 0 | 3 |
| 医療施設や社会福祉施設の利用をめぐる問題 | 2 | 3 | 0 | 5 |
| 看護や療養・生活指導をめぐる問題 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 退院後の社会生活への復帰をめぐる問題 | 1 | 2 | 0 | 3 |
| その他医療福祉に関する相談 | 4 | 14 | 0 | 18 |
| 合 計 | 21 | 68 | 0 | 89 |

3. 公開講座【自主事業】

「在宅医療の実際 ー通常時とコロナ禍ー」をテーマとし板橋区役所前診療所の鈴木陽一先生よりオンラインでの講演会を実施した。参加者61名であり、アンケートでも「大変良かった」「有意義であった」との高評価であった。

4. 難病検診への参加協力

例年、難病無料医療相談会は東京都から委託を受け、東京都難病相談・支援センターが実施している。当協会では、難病無料医療相談会に毎回2～3名のMSWの派遣に協力し、専門医と面接前の事前面談を担当しているが、新型コロナウイルス（COVID-19）の影響を受けオンラインでの開催のためMSWとしての参加はなかった。

5. 地域巡回医療福祉相談活動企画運営委員会【自主事業】

地域巡回医療福祉相談会運営委員と江戸川区、西東京市、葛飾区、豊島区の独自相談会実行委員が、相談会活動の企画や今後の運営等について情報共有及び協議する場として、社会問題対策部と総務部共催で委員会を開催した。

今年度も新型コロナウイルスの拡大防止のため、委員会をオンライン中心で行い、相談会開催に向けて検討を重ねた。例年行われていた福祉まつり等の中止の影響もあったが、対面での相談会を東京都委託事業地域巡回医療福祉相談会として4回開催することができた。

6. 江戸川区医療福祉相談会【自主事業】

2022年3月15日（火）に江戸川区介護フェア・ミニ相談会を地域巡回医療福祉相談会として開催する予定であったが、新型コロナウイルスの影響で中止となった。2021年12月8日（水）「江戸川区養護委託事業について説明会およびグループワーク」を実行委員会と同時に開催した。江戸川区介護保険課職員、区内MSW等31名が参加し意見交換を行った。2022年3月4日（金）、ZOOMにて「入退院支援についての情報交換会」を実行委員会と同時に開催、区内MSW9名が参加した。

7. 葛飾区医療福祉相談会【自主事業】

2022年3月5日（土）葛飾区パルフェスタにて、区の協力のもと地域巡回医療福祉相談会として相談会活動を行う予定であったが、新型コロナウイルスの影響で中止となった。

8. 西東京市医療福祉相談会【自主事業】

2022年3月12日（土）「介護と医療の地域連携を考える～コロナ禍の現状と課題～」と題して、西東京市内8カ所の地域包括支援センター職員、西東京市内5カ所の病院MSW、在宅療養支援窓口担当者、市役所高齢者支援課職員で意見交換会を開催した。当日はまん延防止等重点措置の間だったため、集合開催が出来なかったが、当協会の協力を得てZOOMで開催をすることが出来、計27名の参加となった。コロナ禍で病院の状況がどう変化しているのかをスライドで説明し、その後3つのグループに分かれて、日々の連携での疑問点について意見交換をした。コロナ禍で、地域との連携について、新たに発生した課題もあり今後も意見交換会の開催を求める声が聞かれた。

9. 豊島区医療福祉相談会【自主事業】

2019年度までは豊島区ふくし健康まつりにて、薬剤師会主催の健康展の中に相談ブースを設置し、独自相談会として開催したが、昨年度、今年度は新型コロナウイルスの影響で中止となった。

10. 江戸川区神経難病検診

江戸川区・区医師会主催、(社)東京進行性筋萎縮症協会後援の江戸川区神経難病検診について、当協会が参加協力の依頼を受けている。今年度は、2022年10月3日(日)江戸川区医師会館にて開催され、東京都委託事業地域巡回医療福祉相談会としてMSW2名を派遣し医療福祉相談に対応した。

11. 災害支援活動【自主事業】

(1) 支援活動の運営

東日本大震災以降、当協会内に「災害支援対策委員会」を発足させ、定期的に活動の打ち合わせを重ねてきた。2021年度はオンラインにて委員会を実施した。

委員会の構成メンバーは、三役、各部理事、活動に賛同する一般会員である。協会内に委員会を設置することにより、2011年以来、継続的な活動を図ることが可能となっている。

(2) 被災者への支援

- ①東京都への直接要望を実施し、「災害支援研修の拡大」、「広域避難者の健康、人権に対する支援の継続、強化」、「広域避難者への相談・心理支援・情報提供の体制を整備・充実」について要望を提出した。
- ③「子どもの甲状腺検診」(生活協同組合パルシステム東京主催)当日は当協会の電話相談(医療と暮らしのほっとライン)のチラシを配布し情報提供に努めた。

(3) 防災・減災、災害時対策

- ①災害関連情報ストック「みんなで学ぼう!災害制度」を協会内のホームページ内に設け、災害支援に関連する情報の蓄積に務めている。
- ②災害時の業務継続に備え、郊外のサテライトオフィスとの契約・データの保管を継続している。
- ③東京都社会福祉協議会主宰「災害福祉広域支援ネットワーク推進委員会」に参画。東京都や各専門職団体と、災害時における福祉支援に関する協議を図っている。
- ④理事を中心に、災害訓練を実施し、災害時の対策を検討した。

(4) 会員や関係機関・団体への教育及び広報、協働活動

- ①災害支援ニュース「つたえる」をホームページに掲載した。
- ②東日本大震災より10年を一つの区切りに、委員会関係者で振り返り会を実施した。
- ③災害ソーシャルワーク研修会を宮城県医療ソーシャルワーカー協会と共同開催し、知識の向上に努めた。

【定款第2号事業】

2) 会員の専門知識・技術の向上に関する事業

1. 講座【自主事業】

2021年度も「ソーシャルワークの基本をふりかえる」をテーマに企画した。第1回は法政大学の伊藤正子先生に「ソーシャルワークの基本をふりかえる～倫理原則のグローバル声明を手がかりに～」と題してオンラインで講義をしていただいた。ソーシャルワーカーの実践の拠り所となる倫理綱領について、改定された点も踏まえて解説していただき、普段なかなか時間をとることのできない、倫理綱領について考える時間を作ることができた。当日出席者は28名となり、参加者からは「倫理綱領を改めて確認することで、日々の実践を振り返ることができた。難しい言葉もあったが、資料を頂けたため復習するもできた」「ソーシャルワークの価値と倫理は支援の根拠となっているはずだが、それをどのように意識化して日常の相談援助に引きつけるようにするか、工夫が必要なことも多いと思った」等の感想が寄せられた。第2回は、現場・教育・地域という3つの立場で活動されているソーシャルワーカーの方をお招きし、それぞれの立場から私たちに求める視点や活動について、シンポジウム形式でお話いただくことを予定していた。しかし今年度後半のオミクロン株の蔓延などにより開催することが困難となってしまったため、2022年度に改めて開催することとなった。

コロナ禍のためオンライン開催となったが、オンライン開催の長所も踏まえつつ、今後も専門性の意識化や知見を深められる講座を提供できるよう企画・運営に取り組んでいきたい。

2. 研修会 ※講師 敬称略

(1) 新人研修【自主事業＋一部受託事業】

2021年度はコロナ禍のためZOOMを使用したオンライン研修とし、9月から集中コースのみで開催した。

受講生は47名での開催となった。2021年度もZOOM接続のテストを行うなどの準備を要したが、大きなトラブルはなく終了した。また、2020年度同様、受講状況が確認できるようにするため、受講中は自身のカメラを必ずオンにして受講すること、受講後振り返りシートを提出することで出席を確定するなど、できる限りの対策を行った。

【講師】 平田 和広 (東京都医療ソーシャルワーカー協会会長)

樋口 昌彦 (至誠会第二病院)

仲谷 美恵子 (森山脳神経センター病院)

八木 亜紀子 (アアライ株式会社)

山谷 佳子 (聖マリアンナ医科大学産婦人科学)

吉浦 輪 (東洋大学ライフデザイン学部生活支援学科)

藤平 輝明 (東京医科歯科大学病院)

小松 美智子 (武蔵野大学非常勤講師・女性の暮らしやすさを考えるソーシャルワーク研究会)

(2) グループスーパービジョン【受託事業】

①Aグループ

【講師】 渡部 律子 (前日本女子大学 教授)

今年度より、講師が変更となり、3年目以上のSWを対象に、全10回(6月開講 毎月第2土曜日)の講座の開催となった。受講生は6名でコロナの感染状況を踏まえ、すべてオンライン形式で開催した。『新たな視点から実践を見つめなおす』をテーマに、初回はオリエンテーション、第2回はスーパービジョンについての講義と事前課題についてのグループワーク、第3回~8回は参加者が事前提出した事例につき1回1事例の事例検討を行った。第9・10回については、事例検討を踏まえ、講師より知識提供の講義等を行った。全回を通し、講師から参加者への問いや発言の促しがあり、双方向的な講義が展開された。事例検討では、各参加者が対应当時または事後となってから、支援者として心に残る“もやもや”について言語化した。事例のダイアログを、ロールプレイ形式で事例提出者や参加者が読み上げ、患者・家族の立場に立ってみて感じた事や気づきの共有がされた。事例提出者以外の参加者からは、事例についての質問・発言・意見などの共有がなされた。その上で講師より事例の理解を促す新たな視点の提示や質問がなされ、参加者間で意見を交わす事で事例についてさらなる理解を深めた。

参加した受講生からは「複数の視点や見解から新たな気づきを得ることが出来た」「教科書や机上の勉強のみでは学べないことを学ぶことができ、とても有意義な研修となった。」「何がモヤッとしたのかソーシャルワーカーとしてもう少し何ができたのだろうか、クライアントはどのようなことを考えていたのだろうかなど具体的にケースを振り返り深めていくことで、自身の関わりの弱点などに気づくことができた。」「事例検討の中でさまざまな理論や考え方を学べただけでなく、ストレスの向き合い方やSWの人権など日々の業務の中で悩みがちな問題についても渡邊先生からの講義を踏まえて参加メンバーみんなで考えることができたことがとても有意義だった」との意見が聞かれた。オンライン研修の形式でありながら、講師と参加者が活発に発言する場が提供でき、ソーシャルワーカーとしての専門知識・技術の向上を促す良い機会の提供ができたと考える。

②Bグループ

【講師】 石井 三智子 (日本社会事業大学)

経験年数5年目未満の受講生8名で、毎月第4木曜日を基本として開催した。12月で産休に入った受講生と退職した受講生がでたため、1月以降は6名での受講となった。また、新型コロナウイルスの影響で、全ての回をオンライン形式にて行った。講座の進め方としては、初めに各月担当者が事例を提供し、別の受講生が司会を担い、受講生からの意見や質疑応答を繰り返すことで事例を深めていき、提出者が検討したい事に対して振り返りや新たな気づきを得る形式となった。また、講師からの助言や参考文献等の資料も活用しながら進められた。事例検討後には、講師が事例提出者と個人スーパービジョンを実施した。

受講生からは「事例を作成し、共有することで自分が感じていた不全感や悩みを整理す

るきっかけになった。また、自分が働く病院とは違う機能で働いている方や、自分が経験したことの無い事例や病気に触れることで学びにもなった。」「さまざまな機能の病院や訪問診療のケースに向き合うことで、当たり前に行っていた業務の一つひとつがもつ価値や、MSWの存在意義を改めて認識するきっかけとなった。」等の意見が寄せられた。

オンライン形式に関しては「移動時間や電車賃がかからず、集団での研修によるコロナ感染への不安がなかったことがよかったが、直接先生や他の受講者さんたちとお会いできなかったことは残念だった。」等の意見が出された。

③Cグループ

【講師】助川 征雄（聖学院大学 名誉教授）

全10回（6月開講 毎月第3金曜日開催）をオンライン形式で実施した。受講5名（経験年数4年以上を対象）。「実践に役立つ新たな視点や技法」を学ぶ目的で初回はオリエンテーション、第7回に講義、最終回に振り返りを行い、その他の7回に受講生の事例検討を行った。

事例検討は講師が事例を画面上で共有する形式で進めた。講師と受講生からの質問をもとに、事例提供者は事例の詳細な状況とソーシャルワーカーとしての思いを語った。事例提出者の発言に対し、講師、受講生が自由に発言しソーシャルワーカーとしての気づきや提供者への励ましを送った。

研修の各回に受講生へレポートを課した。レポートには「改めてソーシャルワーカーが人の人生の節目に関わる仕事だと実感した。人生の節目に関わることは、患者さんとの信頼関係を築くことが大切だと気づいた。」「発表者の悩みやこのソーシャルワークで良かったのであろうかという疑問や問いかけに先生とメンバー全員で理解することにより、今後のソーシャルワーカーとしての物差しとなり、これがグループスーパーバイズの醍醐味だなということに改めて感じた。」等の受講成果が窺えた。また「初めてのオンライン研修で、自宅内に子どもたちがいる中で、2時間きちんと受講できるか緊張したが、講師・受講生の温かい対応のおかげで、安心感のうちに2時間が過ぎた。」との意見があり、感染症やライフスタイルの制約のなかで本研修は会員が専門知識・技術の向上に努める機会を確保できたと考える。

(3) スーパーバイザー養成講座【自主事業】

【講師】福山 和女（ルーテル学院大学名誉教授）

毎月第3火曜日（月によって第2火曜日）に経験年数2年以上の受講生9名でオンライン形式にて実施した。毎回受講生同士で講座参加の目標を共有し、そのテーマに則り講師からの問いかけに答えつつ、スーパービジョン体制を理論的に学んでいった。また、個別の事例にも焦点をあて、ソーシャルワークにおける想定限界を考えていった。その中で、クライエントの置かれている状況を全てを理解していくことに限界があることも再認識し、日々の業務を振り返る機会となった。

講座終了後のアンケートでは、「スーパービジョンについてこれほど考えたことはないというほど、考えた研修期間であった。毎回新たな視点の指摘をもらい大変勉強になった。ソ

ーシャルワーカーとして軸を持ち、今後も学び続けることが大切だと感じた。」「毎回共通したテーマがありながら個別の課題にも焦点が当たり、実践に役立つスーパービジョンを学ぶことができる感じた。」等の受講成果が窺えた。

また、オンライン形式により受講生同士の直接的な交流の場を持つことは難しかったが、「開催場所によっては参加を諦めた研修もあったが、会場までの移動時間を省略でき良かった」等、新型コロナウイルス感染症により様々な制約のある中で、参加のし易さにも繋がった。

(4) 連続講座【自主事業】

今年度は初めて、一つのテーマに対し全ての講座の講師が異なる形式で企画を行った。テーマを「スキルアップ研修～コロナ禍に必要な知識と視点～」とし、コロナ禍で顕在化している課題について学び、SW実践のスキルアップに役立つことを目標とし、下記の講座を11～3月に開催した。当初は例年通り、受講料を徴収する予定であったが、コロナ禍での学びを促進することを目的に会員は無料で受講可能となった。

第1回 2021年11月13日(土) 14:00～16:00 申込数:9名、受講者数:9名

テーマ:ウィズコロナ・ポストコロナの“治療と仕事の両立支援”

～ハローワークにおける就労支援の現状と病院との連携、活用できる制度について～

【講師】岡田 晃 (ハローワーク飯田橋 就労支援ナビゲーター)

第2回 2021年12月4日(土) 14:00～16:00 申込数:29名、受講者数:27名

テーマ:「ひきこもりを生きる」を支援する

～余計なお世話をしないために必要なこと～

【講師】長谷川 俊雄 (白梅学園大学子ども学部教授 社会福祉士・精神保健福祉士)

第3回 2022年1月16日(日) 14:00～16:00 申込数:39名、受講者数:35名

テーマ:孤立の病としての依存症

～アディクションの対義語はコネクション

【講師】松本 俊彦 (国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所薬物依存研究部 部長)

第4回 2022年2月19日(土) 14:00～16:00 申込数:30名、受講者数:25名

テーマ:コロナ禍であぶりだされた女性の課題とソーシャルワーク支援

【講師】小松 美智子 (女性の暮らしやすさを考えるソーシャルワーク研究会)

第5回 2022年3月2日(水) 19:00～21:00 申込数:25名、受講者数:22名

テーマ:ソーシャルワーカーに必要な移民・難民支援のための知識

～クライアントとして出会ったとき、必要な支援ができるために～

【講師】大川 昭博 (移住者と連帯する全国ネットワーク理事)

受講者からは「どの話も興味深いものばかりで、自分の仕事の姿勢をあらためて問い直したいと思いました。」「期待以上の研修内容でした。」「ひきこもりの支援において、『家から出る』という考えではなく『ひきこまれる場所をいくつも作る』という考えで支援するというのが印象的であり、参考になった。」等の感想が寄せられた。

オムニバス形式ではあったものの、現代の社会構造のなかでのしがらみや孤立という課題に対して支援者としてどうかかわっていくか、考えるヒントを与えてくれる講座となったと考える。今後とも会員のソーシャルワーク実践のスキルアップに役立つ研修を企画していく。

3. プログラム検討委員会

協会の研修事業の体系、内容などを検討する諮問機関である。2021年度はオンライン研修全体の運営状況や各講座の内容検討などを行った。

| | | |
|------|---------|--------------------|
| 【委員】 | 井上 歩 | (河北総合病院) |
| | 駒ヶ嶺 さゆみ | (豊島中央病院) |
| | 佐藤 真弓 | (国分寺地域包括支援センターひかり) |
| | 中辻 康博 | (豊島区医師会) |
| | 原田 剛 | (新山手病院) |
| | 平川 直子 | (東京白十字病院) |
| | 平田 和広 | (上板橋病院) |
| | 森田 祐美子 | (日の出ヶ丘病院) |

【定款第3号事業】

3) 医療ソーシャルワークの必要な調査研究に関する事業【自主事業】

1. 医療福祉問題研究委員会〔自主事業〕

当委員会は、「社会福祉・保健・医療分野における調査・研究及びソーシャルアクションを行なうこと」を目的に活動を行う。理事会が承認する専門部会である。

(1) ホスピス・緩和ケアにかかわるMSWの集い

2020年度に作成した「がん患者さんを理解するための視点マップ」を用いて、次年度に研修会を開催するため、協力員等で ZOOM 会議やメールで意見交換を行い、研修会の内容や方法について協議を行った。

(2) 成育医療等を考える小委員会

成育医療等についての実態を会員へ理解してもらうための情報発信として機関誌である「医療ソーシャルワーク」への原稿掲載について委員で協議を実施した。オンライン、メールを利用し意見交換を行った。

(3) 身元保証に関する小委員会

身元保証の問題について、現場においてMSWがどのようなことに直面し、困っているのか、現状の把握を行うことを目的とオンラインにて事例検討含む会議の開催を行なった。

また、次年度に向けた話し合いを実施し、領域ごとの支援の課題を分析することや調査研究についての目的についても再度、協議を行なった。委員メンバーの構成の見直し、追加募集についても情報発信を行なった。

[定款第4号事業]

4) 刊行物の発行に関する事業【自主事業】

1. 会員向けニュースレター「東京MSW」の発行（各号900部）

会員向けニュースレター「東京MSW」(357号(5月)、358号(8月)、359号(11月)、360号(2月))を発行し、会員相互の情報共有、新しい情報の提供を行うとともに、協会活動を発信する媒体として機能するような内容の充実に努めた。

2. 機関誌『医療ソーシャルワーク』70号の発行（1000部）

協会機関誌である『医療ソーシャルワーク』70号(3月)を予定していたが編集が間に合わず延期、2022年度前半に刊行予定。